

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派名：夢みらい

赤井康彦、安藤博、八木嘉之、小川喜三郎、矢吹安子、夏川嘉一郎

(2) 実施日：2015年11月16日（月）13：30～15：00

### 【1. 調査の目的】

(1) 生態系保全策

「生物多様性あきる野戦略」の研修

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

「生物多様性あきる野戦略」案の概要を知るため

(2) 選定地1：東京都あきる野市 市役所

### 【3. 調査結果】

(1) 内容

市の全容：総人口 80,604 人（推計人口 2015 年 9 月 1 日）

面積 73.47 km<sup>2</sup>（約 60%が森林）

対象事業期間：平成 26 年から 10 年間の予定（26 年戦略案策定、現在実施に向け取組み中）

#### ■戦略案策定の背景

森林が全域の 6 割、また自然愛・郷土愛が強い土地柄、更に第一次産業の衰退で森が荒廃、これ等諸条件の重なりで早くから森への関心度向上、この様な環境の中、あきる野森構想（平成 19 年から）に基づく森保全策への取組みが始まる。この一連の施策で生態系の大切さを更に痛感、ごく自然に今回の「あきる野戦略」が策定されるに至ったもの。

#### ■基本理念

1. 生物多様性保全と地域活性化の両立
2. 全ての主体（市民・市・事業者・農林業者等）との協働
3. よりよい未来（持続可能性社会）指向

#### ■基本計画

1. 生物多様性保全戦略の背景 → 人間も生態系の一部、共同基盤環境を守るは当然。
2. 生物多様性現状と課題 → 農林業衰退、新たな保全策急務。
3. 生物多様性基本的事項 → 次世代に引き継ぐため、基本理念を定める。  
（今生きる者の責務。）
4. 望ましい姿の実現に向けた取組み → 望ましい姿の実現に向け、基本方針・取組みの体系化。
5. 各地域における取組み方針 → 各地域ごとの望ましい姿に向け、問題点・課題に対する取組み方針決定。
6. 推進体制と進行管理 → 戦略、着実化のため、その体制管理方法についてのまとめ。

## ■戦略の特徴

保全専門組織「あきる野生きもの会議」設立。

保全の為の調査・情報を常に重視する戦略に基づく生態系保護条例制定（認識面・制度面）。

カントリーコード作成（観光客向けルル作り）や、レッドリスト（守るべきもの）の作成。

○あきる野「恵みの森林構想」時代からの引継ぎ施策（ボランティア支援）[H19年発足]

1. 森林レンジャー（森構想に基づく森づくり）専門家 4名（森の調査・情報）
2. サポートレンジャー（自治会・市・市民で道・景観等森づくり支援）120人程度
3. 森の子レンジャー（小学生4～6年生 次世代の守り手、見習い）
4. モデル地区での産学公連携の森づくり
5. 森の学校、一般山間学校制度あり。

◎上記（1～5）戦略により、取り組むべき施策方向が明確化。（平成26年9月）

## ■主なQ&A

Q1. 主な生息動物は？ → A1. 熊、穴熊、カモシカ、モモンガ、ムササビ、テン、キツネ、フクロウ、鷹類、オオサンショウウオ、猿、鹿、猪など。

Q2. 開発圧力に抗えるか？ → A2. 奥山の方は国立公園に指定（奥秩父の山々に繋がる）

Q3. 獣害対策は？ → A3. 里に出てくる猪は捕獲。（他は奥山へ追い払い）

Q4. 保全事業予算は？ → A4. 約3,200万円（内、700万は東京都から出る）。  
実質は、2,500万円位（内、森林レンジャーに1,000万円）

Q5. まちづくりに関わる活性化策は？ → A5. ジオパーク構想・美しい水・河川環境UP・森中にある旧小学校の活用等。まちの近くは森林浴公園に。

## (2) 考察

急速な人口減少・高齢化進展の昨今、何れの自治体も「持続可能性」と云う概念に基づいた施策を模索しつつある時代。

財政管理や公共施設政策等に、そのこと（持続可能性コンセプト）の取り入れを検討している所は既に出始めているが、持続可能性＝「生物多様性（生態系保全）」として、これを市の総合政策に位置付け、取り組んでいる所は稀である。

その点で、彼の市は正に持続的可能性社会構築の先駆的存在ではなかろうかと考える。

○本市も山間部を抱しており、彼の市（あきる野市）の施策は大いに参考になるのではと考える。

平成27年12月10日

報告責任者： 夏川 嘉一郎